



2013年9月1日～6日参加

### 熊本総合医療リハビリテーション学院 いくみさん



今回初めてスタディーツアーに参加させていただきました。また、初めてカンボジアに行かせていただきました。いろいろな所を見学させていただきましたが、どこに行っても日本との価値観や文化の違いを感じさせられました。

中学校を訪問では、日本では当たり前に行っている教育を設備や教師が足りておらず、教育を受けられる子と受けられない子に格差があること、ほとんどの子供が家の手伝いをするなどして働いていることを知りました。また、子供たちの栄養状態が悪く発育の速度が先進国に比べずいぶん遅れていることも見て取りました。金銭面の問題もありますが、全体的に知識を得る機会が少ないように感じました。学校にしる孤児院にしる建物があったとしても自分たちで維持していく力がなく継続した支援が必要という話もききました。これがカンボジアの現状だと感じると共に、一時的で物質的な支援では何の役にも立たないのだと感じました。また、日本と大きく価値観が違うと感じたのが勉強であれ、仕事であれ全てが生きることに直結しているということでした。しかし、中学校でも孤児院でも子供たちが夢を持っていることや笑顔で遊ぶ姿は日本と変わらないと思いました。

地雷博物館ではカンボジアの歴史や政治の状況も合わせて現在のカンボジアでの地雷の被害や撤去の状況を知ることができたためより深く学ぶことができました。地雷や様々な兵器が未だ世界中で使用されていることを改めて考えさせられました。

私がこのツアーに参加したきっかけは、



義肢装具士として途上国支援を行った卒業生講演を聞き、自分でも途上国の現状を見てみたいと思ったことでした。ほんの一部ですが国立リハビリセンターを見学できて勉強になりました。カンボジアに関して言えば、世界各国の支援により、最低限の技術と設備は整っていると感じられました。しかし、先進国のものに比べれば大幅に差があります。それは、その他の医療に関しても同じようにかんじられました。国立リハビリセンターは無料で義足を作ることができるということでしたが、その他の施設で作る際には保険制度がなく全額負担となり、お金が無いという理由で病院にも行けない人もまだまだいるようでした。今後支援が求められるのは福利厚生制度の分野ではないかと思いました。

スタディーツアーに参加させて頂いて、普通に旅行に行ったのとは違う角度から他国を見ることができてとても勉強になりましたし、日本を振り返るきっかけにもなりました。また、カンボジアという国の面白さを知り、好きになることができました。遺跡やトンレサップ湖のツアーもあり充実した時間を過ごすことができました。カンボジアにまた行ってみたいと思いました。また、日本から何か支援ができればと思います。古川さん、曾田さん、バナさんには大変お世話になりました。たくさん学びをありがとうございました。また、ツアーのメンバーに恵まれた事にも感謝しています。ありがとうございました。